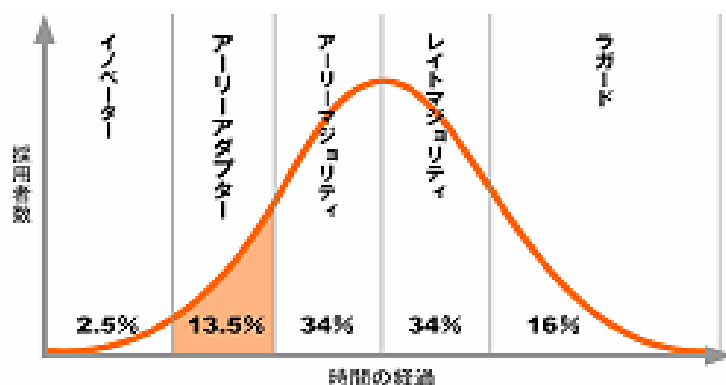


携帯電話からスマートフォンへ

～ アーリーアダプター(早期採用者)を確保せよ! ～

「iPhone5、5日間で300万台の予約注文」というニュースが報道されたのは、2012年9月のことでした。スマートフォン（高性能携帯電話）を開発して市場を牽引してきたアメリカ「Apple」社が、次世代の携帯電話である6代目スマートフォンの発売を発表して、わずか5日間でこれだけの予約注文があったのです。

アメリカ社会学者ロジャーズが提唱した「イノベーター理論」では、革新的な新商品は新しいもの好きな層などが購入を先導し、普及率を16%超えると(2.5%のイノベーターに13.5%のアーリーアダプターを加えると)一気に加速すると言われています。



▲ ロジャーズの採用者分布曲線

日本では「携帯電話」が主流でしたが、2008年のiPhoneの出現により、国内でもスマートフォンの割合が増え始め、3キャリア（docomo, au, softbank）でもスマートフォンの生産を始め、現在では既存の携帯電話よりスマートフォンの割合が高くなっています。また、スマートフォンの月額料金は、携帯電話より約1,700円高くなると言われています。通信会社ではスマートフォンの販売や回線の契約により収益拡大に直結することから、携帯電話よりスマートフォンの拡大をねらっています。

スマートフォンは国内外で基本ソフト（OS）の仕様が統一されており、今まで国内で独占していた携帯電話市場は、海外メーカの進出により一気にシェアを落としていきました。いわゆる「ガラパゴス携帯」問題です。携帯電話の仕様の統一が遅れたなどの原因により、海外メーカに押されてしまったのです。

このように、iPhoneの出現により携帯電話の市場が一気に縮小してしまいました。iPhoneが短期間の内にアーリーアダプターを確保してしまったために、私たちは携帯電話からスマートフォンへの急激な切り替えを目の当たりにすることになったのです。